

マスターズ水泳の思い出

計測工学科 鷲田理雄

卒研でガイガーカウンターの研究に取り組み、会社では原子力発電所の復水器管の品質保証を担当してきた者として、福島原発事故は大変憂慮している。1日も早く成功裡に終息することを願っている。

退職後、水泳を初歩から習い、マスターズ水泳を楽しんでいます。マスターズ水泳大会は予選も選考もなく、年間登録料とそれぞれの種目のエントリー料を払えば出場でき、年齢は5才毎の区分で争うものです。すべての記録は本部で集計され世界記録、日本記録、大会記録、年間50傑ランキング等が発表されます。優秀者にはメダルが授与されます。

2000年マスターズ登録をして、日本マスターズ東海大会、ジャパンカップ(東京)、レインボーカップ(名古屋)に出場しました。毎日が日曜日の生活に馴れた者にとって飛び込み台に立ってスタートの合図を待つ時の緊張感、全力で泳ぎきった時の疲労感は心地よいものでした。上記3大会の他、ローカルな大会もあり自己記録の更新とメダル獲得、50傑ランキング入りを目指し年間5~6回大会に出場して早や10年以上になります。

2000年ジャパンカップの時、1枚のパンフレットが目にとまりました。オーストラリアのゴールドコーストで行なわれるASPAC2000(第2回アジア太平洋マスターズ大会)です。これに出場したいと思い、仲間に声をかけ2人でオーストラリアに飛びました。以後この人が私の水泳でのよき相棒となりました。

ASPAC2000は水泳を含め28種目の競技が別々の会場で行われる大きな大会ですが、さすが観光の町ゴールドコースト、素晴らしい企画で迎えてくれました。前夜祭はそれぞれの競技の選手同士集まり街中を行進しましたが選手同士の交流、歓迎してくれている街の人との交流等々緊張感もほ

ぐれ楽しい1時でした。ゴールドコースト在住の日本人女性達が揃いの和服姿で歓迎してくれました。成績の方は、私は1種目が4位と大健闘、相棒は銀メダル1つ獲りました。帰りはシドニーから、カンタス航空で帰路に就いたのですが日本人スチュワーデスが1人いて水泳の話をし、相棒の銀メダルを見せたところご褒美にコックピットに案内してあげるということになりコックピットの中で赤道上空をフライトしました。ニューヨークの同時多発テロの1年前の事です。3年前、相棒も亡くなりましたが、11年前の良き日の思い出です。



▲ 写真1



▲ 写真1